



Data

監督/脚本: パノス・コスマトス
出演: ニコラス・ケイジ/アンドレア・ライズブロー/ライナス・ローチ/ネッド・デネヒー/オルウェン・フェレ/リチャード・ブレイク/ビル・デューク

■■■ショートコメント■■■

◆ワケのわからないカルト集団に、愛する妻を理不尽に殺されてしまった男の復讐劇。本件は数多いそんな設定の映画の一つだが、A級スターのニコラス・ケイジが、目をむいた形相の主人公レッド役で登場するのが、B級、C級映画である本作の売り。「米国有名レビューサイト・ロタントマト絶賛98%!!」と書かれたチラシと、意外に評価の高い新聞紙評を読んで劇場に向かったが・・・。

◆2018年7月8日に見た『REVENGE リベンジ』(17年) (『シネマルーム42』未掲載) は、美少女の復讐モノで、それなりに面白かった。“復讐モノ”のストーリーはとにかく単純だから、第1にどんな状況設定をするのか、第2に主人公と敵役のキャラと魅力の如何によってその作品の良し悪しが決まってしまう。しかして『REVENGE リベンジ』は主人公の美女がとにかく魅力的だったが、本作に見るニコラス・ケイジは？

本作で何よりも気に入らないのは、カルト集団の異様さ。というより、バカバカしさ。そのリーダーのジェレマイア (ライナス・ローチ) は、随所でイエス・キリストとの結びつきを強調しているが、この男の馬鹿さ加減には映画全体を通じてウンザリ…。

◆また、本作導入部でレッドと2人だけの水入らずの楽しい生活を送る妻マンディ (アンドレア・ライズブロー) もあまり魅力的とは言えないから、更にダメ。彼女がカルト集団にはじめて出会うシークエンスに納得できなければ、ジャンヌダルクばりの火あぶりの刑に処されるシークエンスもイマイチ同感できない。逆光を多用したカメラ撮影の見事さや重厚な音楽を称賛する評論もあるが、私には所詮奇をてらっているだけ、もしくはこけおどしにしか思えなかった。そのため、映画が始まるや20分くらいで席を立とうかと思っただが、最後まで我慢した自分を褒めてやろう。